日本の学童ほい・く 普及拡大ニュース

全国学童保育連絡協議会

みんなで読もう！ 目標 3万5000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2023年2月5日

元気が出るみんなの取り組みをご紹介

楽しく普及拡大

学童保育への理解と共感を広げる・深める、ほのぼのするほいく誌の普及拡大！

学童保育を知ってもらうためには読んでもらうことが大切！

京都府の取り組み

京都学童保育連絡協議会では毎年の総会で『日本の学童ほいく』の普及目標を確認し、普及拡大に取り組んでいます。この間、コロナ禍の影響もあり、まずは現状維持を……と思っています。

●あの手この手の普及拡大！

そんななかですが、加盟地域では「ほいく誌を知ってもらうためには読んでもらうことが大切だ」ということで、ほいく誌のおすすめのページに付箋を貼って配布したり、読んだ感想をニュースにして配布したり、指導員の研修の際に記事を活用したり、子どものイラストや作文を投稿したり、とさまざまな工夫をしてくれています。また、新年度には新入所世帯に4月号をプレゼントしている地域もあります。

●議員の方々にもっと学童保育を知ってもらうために、ほいく誌の購読をすすめています！

京都は公営の学童保育が多く、そもそも保護者会がない、指導員の組織がない、という市町村が多くあります。そういった地域へは、指導員学校や全国研などの案内を送る際にチラシや見本誌を同送するなどの働きかけをしており、購読につながることもあります。最近では、コロナ禍のなか、学童保育が報道などでより取り上げられるようになっている影響か、市町村議会の議員の方々から「学童保育を知りたい」との問い合わせも増えています。

大きな取り組みができていないのが現状ですが、学童保育を知ってもらうための一歩として、ほいく誌を読んでもらうことを大切にしていきたいです。この普及拡大ニュースで紹介されている各地域の取り組みを参考にしながら、次年度に向けて取り組んでいきたいとあらためて思っています。

学童保育への理解を広げよう深めよう

月刊『日本の学童ほいく』
普及拡大の手引き

- ●働きながらの子育てに
- ●保育実践（生活づくり）に
- ●保護者と指導員の共感を育む
- ●学童保育をよくするために
- ●保護者と指導員が自らつくる
- ●学童保育の専門月刊誌・全国連協の機関誌です

普及拡大に役立つヒントがあります！

日本の学童ほいく 2023年2月号

特集 第57回 全国学童保育研究集会

2022年10月29日・30日、第57回全国学童保育研究集会がオンラインで開催され、全国各地から4575名が参加し、大いに学び、語りあいました。2日間の模様を、全体会のダイジェスト、参加者の感想、分科会報告、講師の先生方のメッセージなどをとおしてふり返ります。

全国学童保育連絡協議会

日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

みんなで読もう目標 3万5000部

2023年2月5日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

読者の声

和歌山県有田川町●指導員から

「きょうのおやつなに～！」と、おやつを楽しみに帰ってきた2年生の男の子。その日のおやつは、“おにぎり”でした。

「三角形で～、のりとか塩とかついていて～」と言いましたが、まだわからない様子。そこでさらにヒントを出すことに……。「一番上が『お』で、一番下が『り』」と言うと、パッと表情が明るくなって「おにぎり～」と元気よく答えて手を洗いに行きました。そして再び私のところにやってきて、「上が『お』で、下が『り』って、“おまもり”とか、“おかえり”もそうやで」と言いました。「なるほど！」と感心。“おまもり”も“おかえり”も、食べ物ではないけれど、どちらもほっこり、安心する言葉だなぁと思いました。

『日本の学童ほいく』
2023年2月号「読者のひろば」より

奈良県生駒市●保護者から

2022年10月号の特集「異年齢の子どもたちで仲間関係を紡ぐ――学童保育の生活」で栗山由美子さんが書かれた「さまざまなつながりのなかで、わが子の成長を感じて」を読みました。

わが家は、息子が小学校に入るタイミングで引っ越しました。はじめての土地で学童保育にも通うことになった息子は、きっと気持ちが張りつめていたのだと思います。玄関で泣く日もありましたが、がんばって小学校と学童保育に通ってくれていました。同じ学年の子どもたち、上の学年のお兄ちゃん、お姉ちゃんのいる教室で、息子はなにを思って過ごしているかな……と、仕事中でもやはり気になりました。親としても、メンタルの平静を保つのがやっとの春でした。

息子の通う学童保育では、みんなで遊びながら百人一首をおぼえます。最初は「むずかしくてイヤだ」「僕はできない」と言っていましたが、日が経つにつれ、「今日は3つまでおぼえた！」「いまは23！」と、できるようになることに自信がつき、キラキラした目をして帰ってくるようになりました。このような経験は、異年齢の集団だからこそ叶うことだと、親としてうれしく思っています。この先きっと、イヤだ、逃げ出したいと思うこともあるでしょう。そんなとき、「あのときがんばったからできたじゃない！　大丈夫！」と、背中を押してあげたいと思います。

『日本の学童ほいく』2023年2月号「読者のひろば」より

私と「ほ・い・く・誌」

読者リレー執筆・今月は千葉県八千代市から指導員の鈴木美加さん

私の職場の仲間が2022年4月から増えました。60人を超える学童保育所で3人の常勤の指導員と補助の指導員が勤めています。新人さんと組むのは久しぶり。「学童保育の指導員をしたかった」と言ってくれた、保育士経験を持つ若い方です。学生の頃に学童保育のバイトをしていたこともあって、学童保育のことを知っていてくれていたそうです。

私にとっては、稀に見る逸材です。『日本の学童ほいく』を紹介すると「読んでみたい」と言ってくれ、研修会にも参加をしてくれます。読者を増やすことはむずかしい。しかし、手渡してすぐに読んでくれる人に身近なところで出会えたことで、保育の話をたっぷりでき、私もとっても元気になりました。

ほいく誌は、中身がよくてすすめていますが、学童保育をよくしていきたいという仲間が増えるというよさも実感できます。「すすめたい相手がいる」。そのことが私を元気にしてくれます。

保護者の方のなかには、一生懸命子育てしているけれど、学校からは苦情の連絡があり、なかなかうまくいかない、職場もなかなかうまくいかない、お迎えのときにいつもどなってしまう……と話してくださる方もいます。そのなかに「だけど、夕飯は美味しいものをつくりたい」と、食べ物の話をするときに明るい笑顔を見せてくれたお母さんがいて、「ほいく誌をとおして、励まされた」とも話してくれました。ほいく誌は誰かを励ます力を持っている、届いた一冊一冊を手渡す相手が私にいることが、子どもたちの前で笑顔でいられる素だと思います。

編集・発行　全国学童保育連絡協議会　〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-13　TEL●03-3813-0477　FAX●03-3813-0765
E-mail●zghrk@xui.biglobe.ne.jp　http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou